



## 2009 Formula Nippon CERUMO/INGING Race Report 第7戦 オートポリス

### ◆ 8月30日(日) Final

#### 決勝レース 結果

### #48 立川 祐路 13位

#### < フリー走行 > 天候:晴れ | コース状況:ドライ

雄大な阿蘇の山々に囲まれたオートポリスでの3年ぶりに開催されるフォーミュラ・ニッポンレースは、さわやかで晴々とした気候で決勝日を迎えることができた。気温は25°Cを超え、多くのモータースポーツファンがサーキットを訪れている。

AM9:15から30分間のフリー走行が始まった。チームは昨日の予選での不具合点を解消し、新たな気持ちでこのウィークに臨む。セッション開始とともに決勝レースのシミュレーションとして1分35秒台での周回を重ねた後、ピットイン作業の確認も行った。決勝レースを見据えたガソリンの搭載量、ユーズドタイヤでのこの走行であれば最低限の準備は整ったのではないだろうか。セッション中盤からはピットインを繰り返し、セッティングに微調整を加えて更なるタイムアップを狙った。フリー走行終了後、フルアタックは出来ないものの、ファンを乗せたバスと同時に走行する15分間のサーキットサファリでのイベント走行も、一連の流れとして捕らえてセッティング作業は続けられた。決勝レースは他チームのエンジン交換でのグリッド降格もあり12番手からのスタートとなる。

#### < 決勝レース / 54周 > 天候:晴れ | コース状況:ドライ

ホームストレート上では午後2時30分からの決勝レースに向けて各マシンはグリッドに並べられ、華やかなオープニングセレモニーが行われている。しかし、12番グリッドに並ぶはずのCERUMO/INGINGのマシンは未だピットの中での修復作業が続けられていた。朝のフリー走行後、決勝に向けたマシンセットアップと通常メンテナンスを行っていたマシンに、ミッションケースを交換しなければならないという予期せぬアクシデントが襲ったのだ。メカニック達の懸命な作業が続けられていたのだが、チームオーナーの判断もあり、竹内監督はスタッフにピットスタートを指示、完全にトラブルを解消してから立川をコースへ送り出すことを決めた。

決勝レースがスタートした28分後、オレンジ色に輝くCERUMO/INGINGのマシンがピットアウト。見えない敵に襲いかかるかのように立川は気持ちの高ぶりを爆発させた。レース開始時の混乱も収まった時間帯ではあるが、トップ争いが1分38秒台で行われている中、立川は1分37秒フラットで15周に渡り連続ラップして見せる。だが、アクシデントのためにレースとしては結果が望めないため、チームは立川を一旦ピットインさせリヤサスペンションのセッティングを変更した。

ピットアウトした立川はいきなりベストタイムの1'36.523を記録、この時点で2番手となるタイムだ。その後も1分36秒台で周回を続けてレースは後半戦へと突入する。幾度か前走車に追いつく立川であったが、チームはここで深追いしてもレースに混乱をまねいてしまうと判断、更に確認したいセッティング項目もあり再度のピット作業を選択する。レース結果としては不甲斐ないものとはなったが、今回のレースは次のステップへと有効活用することとして、ピットインを繰り返しながらレースを終了させた。

優勝は#32 小暮となり、3位フィニッシュした#31 L・デュバル(NAKAJIMA)が初の年間シリーズチャンピオンを決めた。

**ドライバー／#48 立川 祐路**

「レースがきちんとできなかったのは残念だったね。気持ちを切り替えて臨まなければいけなかったのが辛かった。だけどマシンセッティングを詰めることもできたしポジティブに考えているよ。最後の SUGO 大会は必ず良い結果を残すからね。」

**監督／竹内 浩典**

「ミッションケースにトラブルが発見され、ケース全体を交換することを選択しました。スタートには間に合いませんでしたが、最終戦に向けてのテスト的な意味合いもあって走行を続けました。最終戦は今年の全てをぶつけて勝ちを狙いに行きます。」

